

地域に愛されて、50周年！



青南だより

平成29年6月号

港区立青南幼稚園
園長 新山 裕之

<種は草花の赤ちゃん>

5月の誕生会では、園庭の「ヤブジラミ」というセリ科の草の種が衣服にくっつくことを紹介しました。種は草花の赤ちゃんで、人や動物にくっついて種を遠くに運び、仲間を増やす仕組みになっているのです。しかし、私が伝えたかったことは、身近にある物に興味をもって働きかけ、そこから楽しい遊びを創り出すことでした。既製品や完成品を与えるのではなく、一見何気ない物に価値を見だし、楽しさを生み出す力を「くっつき虫」と呼ばれる雑草から学ぶこともできるのです。

<身近な自然を遊びに取り入れる>

ちょうど、オープンデーで参観に来られていた3歳の保護者の皆さんにもお見せしましたが、種で模様を作り変えていく私の遊びを、子どもも大人も楽しんで見てくださいました。青南幼稚園の園庭は、樹木も草花も種類がとても多く、遊びに使える物もたくさんあります。ただし、それを生かすためには、教材研究が必要です。私も若い頃、ネイチャーゲームの研修を受けたり、我が子とバッタを捕って育てたり、幼稚園におけるピオトープ作りを推進してきたことが今に生きています。

<人間の思い通りにならない自然>

私が自然や生き物とのかかわりを大事にするのは、「自然が人間の思い通りにならない」ものであるからです。人も自然の一部であり、自然への畏敬の念をもって暮らす姿勢が大切です。保育や子育てという営みは、幼い子どもという、まさに大人の思い通りにはならない存在が相手です。相手の様子に合わせ、こちらが寄り添っていくことで、信頼関係を紡いでいくことができます。その点は、自然と子どもは特に共通点が多くあります。相手に合わせる柔軟さや謙虚さ、そして焦らない気持ちがかかわる際のコツのひとつです。

青南の 二十四節気

・・・水無月（みなづき）・・・

芒種（5日）…紫陽花が色付き始めます…

夏至（21日）…水遊びが気持ちいい季節です…

青南幼稚園の園庭には大きな木が多くあり、その一本にカラスが巣を作っていました。巣立ちの時期に親鳥が人を襲うことがあるため、撤去してもらいましたが、その巣は実に巧みに作られていました。また、幼稚園近くのマンションの軒にはツバメも巣を作っており、親ツバメが卵を温めている様子が見られます。ここ南青山の自然環境が、実はかなり豊かである証拠でもあります。この身近な自然を再発見し、日々の遊びや生活を豊かにしていきたいと改めて思います。



くっつき種でぶうちゃんがオシャレに変身



第2校庭への探検では、運動遊びを満喫



次の探検は起伏に富んだ青山公園へ！



表参道でもツバメが巣を作って子育て中



カラスの巣は身近な物を工夫した力作